

2. 銚子市観光が抱える問題点

銚子市観光の現状分析を踏まえて、抱える問題点を抽出した上で、銚子市観光が抱える大きな課題を設定し、その課題解決のためのポイントを整理する。

(1) 銚子市観光の問題点

現状分析を踏まえると、銚子市観光が抱える問題としては、以下の点が抽出される。

1. 一番早く初日の出が見られる犬吠埼や初詣での満願寺、買い物のウオッセ 21 等によって観光客数（09 年約 277 万人）が堅調な伸びを示す一方、宿泊客（09 年 25 万人）は減少傾向にある。
2. 銚子へ来る観光客の約 90%が日帰り客であるが、日帰り客の平均滞在時間は 3.9 時間程度で、消費金額も 12,000 円程度と宿泊客に比べて低い。
3. リピーターの占める割合が高いものの、リピーターの目的は買い物が多く、景色鑑賞やドライブ、散策目的は訪問回数が増えるごとに減少してくる。
4. 街中には公共駐車場が少なく（路上駐車が目立つ）、さらに街中を巡るための案内が乏しく、立ち寄る施設も数少ないことから、マイカーで来る観光客は街中を回遊していない。
5. 大型バス用の駐車場を確保している事業者が限定的なため、観光バスを使った観光客が行くことができる土産店や飲食店が限られ、観光客の選択肢や行動範囲が制限されている。
6. 犬吠埼、海鹿島、君ヶ浜、長崎、犬若、屏風ヶ浦、利根川の風光明媚な景色や外川の街並みなどの昔ながらの景観が残されているものの、観光拠点として整備されないままとなっており、活かしきれていない。
7. 犬吠埼等での初日の出は有名で、ことさら情報発信をしなくても一定数の集客は期待できるが、それ以外にも朝日・夕日の絶景スポットがあるにもかかわらず、発信が不十分で認知度は低い。
8. ポートタワーや地球の丸く見える丘展望館、犬吠埼灯台など銚子の景色・景観を楽しめる施設が整備されているものの、老朽化等もあって利用者が減少傾向にある。
9. 質の良い一次産品が生産・水揚げされるにもかかわらず、それらを購入できる施設が少ない。さらに、漁港・漁協や漁業者、農協・農業者の協力によって漁業や農業を実感できる体験メニューなども少ない。
10. 良い地元素材を使う故に金額の高いメニューが中心となり、気軽に素材の良さを実感できるメニューが少ない。
11. ぬれせんべい、伊達巻といった特産品はあるものの、質の高い地元素材を使った付加価値の高い特産品は少なく、素材のよさを十分に活用しきれていない。

難しい。

- 12.市内には大手醤油メーカーのほか、せんべい工場、大漁旗・銚子ちぢみ工場などで見学・体験できるにもかかわらず、利用者は限定的である。一方、水産加工工場も集積しているものの、見学・体験の受入れはほとんどない。
- 13.観光客の50%がマイカー、20%が観光バスを使用しており、銚子電鉄や岬めぐりシャトルバス、レンタサイクルといった二次交通を活用できていない。
- 14.温泉もあるため、ファミリー向け、カップル向けの典型的な宿泊メニューはあるが、1人客や格安旅行、長期滞在（試験移住等）といった、多様化する旅行ニーズに対応している宿泊施設が少ない。
- 15.マリパークやカモメウォッチングがあるものの、子供同士や家族で自然に触れあえる観光メニューが少ない。
- 16.市内にはNPO、企業、団体、行政などが事業主体として多数存在し、観光活性化のための活動をしているものの、長期的・広範的な視野を持って取り組んでいる活動は少なく、地域内の相互連携が見られていない。
- 17.インターネットや旅行雑誌、テレビ・ラジオなどから観光関係の情報収集をする人が多いものの、こうした媒体を効率的に活用した情報発信活動はあまり見られない。
- 18.香取、成田等周辺の観光地との広域連携がない。特に両地区は外国人の利用が多く、外国人誘致の機会を逃している。
- 19.銚子市民に「てんでんしのぎ」という意識があるようで、地域としてのまとまりがなく、全体としての危機感もない。そのため、観光への関心を持つ人は少なくないようだが、地域のイベントへの参加意識が低いなど、地域の一体感が見えない。
- 20.地域住民はもちろん、観光客に接する機会が多いと思われる観光関係事業者の従業員でも、銚子市の歴史や自然、産業、街並みなどについて説明できる人は少なく、ホスピタリティある人材が数少ない。

（2）大きな課題

銚子市の主力産業は農業・漁業、食料品製造業、観光業である。歴史から銚子市産業の発展経緯を考えると、市内で特段努力をしたというよりは立地上の優位性があり、周囲の力によって発展したといえるであろう。たとえば、以下のような点を根拠としてあげたい。

1. 日の出・日の入りに人が集まるのは首都圏の東側にあるから
2. 灯台があるのは半島の先端だから
3. 農産品の競争力があるのは大地が肥沃だから
4. 漁港の水揚げ量が多いのは利根川があって運送に便利だから
5. おいしい魚が獲れるのは地形が良いから

6. 風車が多いのは海に囲まれているから
7. 大手醤油メーカーが集積しているのは温暖だから

いわば、こうした天からの恵み、地からの恵み、海からの恵み、風の恵みなどの「与えられたもの」によって産業・経済は発展してきたが、環境の変化に適合する努力が不十分だったため、地域経済が停滞しているのではないか。現在の延長線上には、優位性が薄れていく銚子市が見えるはずである。

これからは、こうした与えられたものを消費者のニーズに合わせて変化させながら、活かしていかなければ、地域経済の再生は見込めない。市内の人口減少に歯止めがかからない以上、銚子市が経済再生を果たすためには、市外住民（観光客）をターゲットとし、「観光」を主力産業として育成していかなければならないと考える。

そこで、銚子市観光の活性化を考える上で、抱えている大きな課題として、以下を設定する。

「立地による優位性の堅持」

今後、銚子市活性化を考えるポイントは、今はまだ残されている優位性を存分に活かして、観光客に対して各種の施策を実施することで、さらに優位性を堅持し、その恵みを未来につなげていくことであろう。数多く存在する恵みを存分に活用することができれば、結果として、観光客が多く来街し（リピート客数もさらに増加）、滞在時間も長くなり（宿泊客割合も向上）、相応の経済効果が期待できるはずである。

逆に、もし有効な対策を講じずに優位性が薄れてしまえば、観光関係の事業活動している事業所の経営が厳しくなり、事業所数が減少することは容易に予想できる。事業者へのアンケート結果では、現在でも観光関係事業者のうち約30%の事業者は新しい顧客が開拓できないことを課題としてあげている。優位性が薄れれば、顧客開拓はますます困難になり、事業継続が難しい先が増えるであろう。

事業所の減少は雇用機会の減少であり、さらなる人口減少につながる。さらに、人口減少は観光関係以外の事業者にも悪影響を及ぼし、さらなる人口・事業所減少を招くことは容易に予想できる。こうした負のスパイラルに陥れば、銚子市全体にとっても利するところはない。そのため、今こそ、課題解決のための行動が望まれる。

（3）今後必要なこと

行政・商工会議所・観光協会・大学などといった既存の地域組織でも当地域の経済活性化のため、さまざまな取組みを行っているが、それを見ると、各組織間の連携は

少ないように見える。さらに地域住民との協調も十分ではなく、住民参加も実現していない。上記の課題を解決するためには、事業者の経営努力は当然のことながら、地域住民による情報発信や来街者へのもてなし等、地域住民の理解・協力も不可欠である。

そこで、課題解決のためには、銚子市内の公的機関（行政、商工会議所、金融機関、観光協会等）が参画する新たな組織づくりが必要だと考える。そしてこの組織が、銚子市観光活性化という目標を実現するため、長期的に活動していく必要がある。具体的には、観光関係に取り組んでいる各組織の連携を推進したり、調整を図ったりすることが考えられる。さらに、銚子市民にも観光活性化の取組みへの参加・協力を求めていく。

その際、活動に参画する誰もが、『短期的・自己中心的意識ではなく、危機感をしっかり共有し、長期的・地域一体的意識を持つことが結局地域全体の活性化につながる。』、との共通認識を持たなければ活動は長続きしない。

つまり、「てんでんしのぎ」との意識を変えていく必要があり、そのためにはやれる人からやれることを地道に継続する以外にはない。